

第3回 芦屋市保育所・幼稚園あり方検討委員会議事録

日 時	平成22年5月13日(木) 9:30~11:30
場 所	新浜保育所・浜風幼稚園・浜風夢保育園・浜風小学校会議室
出 席 者	(委員) 委員長 千葉武夫 吉岡眞知子・目春貴美子・山口誓子・徳永久芽子・島山清史・ 宗政多津子・前川和世 (欠席委員) 漆原千明 (事務局等) 磯森保健福祉部長・波多野管理部長・水谷保健福祉部主幹(保育所担当 課長)・朝生管理課長・谷池葉子こども課課長補佐・中川文子こども課課 長補佐・長岡管理課課長補佐
事 務 局	保健福祉部こども課・教育委員会管理部管理課
会議の公開	■ 公 開
傍 聴 者 数	1名

1 開会

水谷課長) それでは、視察に引き続きまして第3回芦屋市保育所・幼稚園あり方検討委員会を開催いたします。皆様方におかれましては、ご多忙のところご出席賜りまして厚くお礼申し上げます。開会に先立ちまして、保育所及び幼稚園の保護者の役員改選及び市の人事異動がありましたので、委員の交代がございました。早速新委員の方に委嘱状及び任命書の交付をさせていただきます。本日は、1名欠席のご連絡をいただいております。市長の代理として、磯森保健福祉部長が新委員の皆様のところへ参りますので、自席でご起立いただきまして、委嘱状及び任命書をお受け取りください。

(委嘱状及び任命書の交付)

水谷課長) 次に会議につきましては、原則公開となっておりますので、公開といたします。また、会議につきましては、発言者や発言内容についても公開といたします。会議録の作成につきましては、レコーダーによって録音させていただきます。また、本日は傍聴者の方が現地視察に引き続き1名おられます。以上、委員長、ご了承の程よろしいでしょうか。

委員長) 委員の皆様、ただいま事務局からの会議の公開の件等はよろしいでしょうか。

(各委員異議なし)

委員長) 新委員の方、本日1名欠席されていますが、4名いらっしゃいますので、一言簡単にご挨拶いただけますでしょうか。

(新委員自己紹介)

委員長) ありがとうございます。なお、従前からの各委員の皆様を私からお名前と出身団体等をご紹介させていただきます。

(委員紹介)

委員長) それでは、次に本日の資料の確認を事務局の方でお願いします。

(資料の確認)

委員長) それでは、議題1の「第1回、第2回の概要」について、事務局から説明をお願いいたします。

水谷課長) 第1回・第2回の概要説明

委員長) ありがとうございます。
何か質問ございませんか。
よろしいですか。

では、議題の2番目に入ります。

本日、保育所と幼稚園と視察をしていただきましたが、それぞれ参加されました委員の皆様は、どの様な印象を持たれたのかお伺いしたいと思います。

前回の委員会においても机上で話し合うより、一度現地を見学した方がよいのではないかということで今回の視察となっております。

宗政委員) 見せていただいた幼稚園はすごく環境がよくて、子供にとって良い環境だなと思いました。又、シーサイドの幼稚園ですので、ゆったりとした敷地で建てられていると感じました。

それから、幼稚園は幼稚園できっといろいろな有効利用を考えていらっしゃると思います、幼稚園は幼稚園の狙いや目的があり、保育所は保育所で狙いや目的があると思いますが、もう少し活用できていける方法を考えてきたらと思いますのと同時に、保育所も大規模園で、定数を増やすというのは、時間帯も長い中で、保護者の方、そして子供の安全等を含めたら、なかなか難しいこともありますが、今後、保育所としても、待機児童が多い中で、保護者のいろいろなことも聞きながら、保育所のあるべき姿、そういう辺も考えていかないといけないということを所長会等で話し合っている状況です。

私、前に精道幼稚園も公開で見させていただく機会がありましたが、そこでも空いている教室がありました、芦屋市の子供は公平に平等に、入りたいたいところに入れる環境というのは必要であるし、考えていかなければならないと思っています。

委員長) ありがとうございます。

島山委員) 今日、一つ、念頭に置いておかないといけないのは、全園を見ていない中で、あの幼稚園や保育所が、芦屋市内の幼稚園や保育所の中でどういう状態、位置づけというか、全園がああいう形であるのかは分かりません。

今回は相対的な比較なので、保育所は敷地に比べ子供が多いなということと、幼稚園の敷地が広いという状況が、あれが必要最低限というふうに考えるのかというのは、ちょっとまた別なのかなというふうに感じていますので、その辺が実際に、子供の意見は聞けませんので、保護者等の意見とかを聞く必要があるのかなと思いました。

ただ、幼稚園で言うと、空いているところはどういう形で利用されているのかなというのは思いました。その有効利用というのは、別に待機児童の対策というだけじゃなくて、どうされているのかなと思いました。

委員長) ありがとうございます。

目春委員) 私は、今、保育所に子供を預けているのですが、働いている者とすれば、5時まで預かってもらいたいのですが、幼稚園の良い環境を見ますと、幼稚園はいいなって思いました。ただ、幼稚園だと、預ける時間が短いというがあるので、延長保育が、幼稚園でもあれば、パートの人も、預けやすいなというのは感じました、また保育料の負担も、幼稚園の方が軽いかなと思いますので、負担が減りますので、非常にありがたいなと思いました。

委員長) ありがとうございます。

山口委員) 宮川幼稚園は住宅地の中にありまして、園児数が182名で、非常に園児が多い幼稚園です。今日、見せていただいた、浜風幼稚園は、園児数はともかく、すばらしい環境で、園庭も広く、芝生もあり、動物たちや池もある、そういう環境は、率直にうらやましいなと思いました。近隣も、緑も豊かで、環境の面ではすばらしいと思いました。

空いている教室が、宮川幼稚園にはほんとにないもので、その空いている教室を何とかできたらなと思いました。保育園と幼稚園の共有というのは、新浜保育所を見させていただいた中では、ちょっと設備面で難しいのかなとは思いましたが、市の予算も限られているとは思いますが、何か改善して、待機児童を受け入れるなり、何か対策を考えていただければと思いました。

延長保育のことですが、幼稚園が延長保育となったら、今まで2時半、11時50分というお帰りの時間に合わせた働き方をしていたお母様が、仕事の時間を延ばそうという環境にもなると思います。そうすると、幼稚園から帰って、親と過ごせ、触れ合える時間が少なくなってしまうのもちょっと悲しいかなと。たまに、病院の時間が少し延びてしまうから、この時間だけお友達に預けられないから、預かってもらえる環境をつくってもらえればありがたいと思いますが、5時まで延長ができるから、じゃあそれまで、預けちゃおうと簡単になってしまうのは、今、通わせている親としては少し悲しいなとは思いますが。

委員長) ありがとうございます。

徳永委員) 朝日ヶ丘幼稚園は、今年クラスが減りまして、全園で66名です。各クラス22名で年少のクラスが1クラスしかないという状況で、空いている部屋があるのも事実です。今年は、去年、年長さんのクラスで使っていた部屋を「なかよしの部屋」という名前をつけて、どのクラスの子も使っているという部屋になっています。

それから、PTA室を一つ提供してもらっていたり、地域の未就園児の子供が使えるサークルですね、そういうのに使っていたり、コミスク活動で本当に小さい子供を対象にするものに午前中、お貸ししているような状況

です。

朝日ヶ丘幼稚園は山の方なので、自然もいっぱいありますが、坂のところにありますので、怪我とかが怖いかなと思う部分もありますが、本当に先生たちもよく考えてくださって、木にロープをつけてターザンみたな遊びをさせてくれたり、木から木にロープを渡して忍者のような遊びをさせてくれたり、そういう自然の中での遊びをさせてもらっていますが、そこにサークルに来ている小さいお子さんが混じって一緒に遊ぶという場面がありますが、そこはお母さんが責任をとらなくてはいけないのですが、園の時間内であれば、園の責任になってしまうのかなと感じるのですが、どうしてもお母さん同士でお話を始めるのですね。小さい子は小さい子同士で遊びます。そういう場面も現実に見ることになるので、もし保育所と共有しようとなった場合に、職員を増やすとか、そういう手を打たない限りは、同じ敷地内で親なしでという環境をつくるのは、いろいろな面で大変なのかなというのは、保護者のほうの目から見ても、そのような場面はあります。

延長保育に関しては、朝日ヶ丘は少し独特なのかもしれませんが、仕事をされているお母さんが非常に少ないですね。専業主婦が多い地域で、本当に恵まれているとは思いますが、青空のもとで、お母さんが見ているところで元気よく遊びましょうということで、一応先生の見からは離れたところで園庭を貸してもらって遊ばせてもらえる時間ができたおかげで、家にこもって遊ぶことが減ってきました。どうしてもお友達同士で約束をして、園が終わってから仲のいい友達とお宅に行ってゲームをして遊び、そこにお母さんたちも来て、お茶するとか、そういうスタイルもありましたが、今では少し減っていると思います。とてもそれはいいことだと思いますが、そういう環境の中なので、延長保育を5時までするようになったときに、山口さんがおっしゃったように、じゃあ預けたら楽だからというお母さんが出てくるのは事実だと思いますし、多分あり得ることだと予測できます。

委員長) ありがとうございます。

前川委員) この会議については、前任の園長から報告を受けて、今の園長たちとも話し合っております。この委員会では幼稚園教育のあり方もありますので、そのことをもう少し具体的にお話しさせていただきます。

この委員会は、私たちにしては突然の委員会でした。以前、19年度の終わりには、教育委員会と検討会議をつくりましょうという話がありましたが、実際の検討会は実現せずに、この委員会が突然出来たというのは事実です。

しかし、園長会としましては、20年度から、幼稚園として何ができるか、何をしなければいけないのかという子育て支援については、折に触れて話はしてまいりました。また、0歳から3歳までに待機児童があるというこの現実も、幼稚園としても把握しながら、可能な限り園としても支援していかないといけないというのは考えておるところでございます。

今までの幼稚園教育で、保育以外での幼稚園教育の使命を考えたときに、幼稚園は保護者の方が子育ての楽しさを感じることに、子供の内面や子育ての方法を知ること、つまり、幼児教育の啓発に努める。それが大きな役割

であると思います。

それから、参観とか行事、ふれあい活動、保護者会、教育委員会から派遣していただく講師の話を保護者の方に聞いていただく会とか、子供と一緒に楽しさを共有できるように、音楽鑑賞会、こままわしを見せていただく会、人形劇を見る会にも保護者を誘い、お母さんと楽しさを共有してほしいというような支援も工夫しております。

そういうことをしていくことで、先ほど幼稚園の保護者の方がおっしゃっていましたが、預けていたら楽という感覚ではなくて、保護者と子供がいい関係になって、お母さん自身が楽しかったとか、自分の子供以外の子供もかわいいと思えるようになりましたとか、今までは、子供のことを愛しくかかったお母さんも変わってこられたというような感想もたくさんあったのは事実でございます。また、子育てのヒントを見つけるきっかけになったお母さんもおられました。要は家庭の教育力を高めることも幼稚園教育の大きな使命であると力を注いでまいりました。

また、近年では、保護者の責任のもとに園庭を開放しております。その園庭開放によって、おつき合いする人もいなかったお母さんが、交流が深まりましたということも実際にありますし、またそこで保護者と先生が気軽に、子供のことをフランクにお話をされています。その会合の時間が短いか長いかはわかりませんが、成果は上げていると思っております。

これは幼稚園の良さだと思いますが、保護者の方が園への協力をすることが浸透しております。時間があるからと言われればそれまでですが、やはり意識の問題もあり、園としてはありがたいと思っております。

例えば、保護者が、英語を教えてくれたり、絵本のカバーづけや読み聞かせをしてくれる、そういう自主的なグループでお母さん方が集まって協力いただけることもあります。また役員活動の中で保護者同士の交流ができ、とてもいい関係になり、それが園づくりのための協力にもなっているということも、幼稚園ならではの良さだと思っております。

そして、卒園したお母さん方も、小学校でもPTA活動等を通じて、学校のために何かしようという意識を持っておられるのも事実です。幼稚園をきっかけに、地域のコミュニティーが広がっているということも、9園での話し合いの中で出ておりました。

また今度は、未就園児への支援としましては、自主的な子育てグループや、こども課が運営しています子育ての事業に幼稚園の施設をお貸しすることもあります。園児とのふれあい活動をしながら、園を中心として子育てのセンター的な役目も果たすように、今、意識しながら行っております。そうしながら、園への親しみをもち、人との広がりをつくっていくことがあるように思います。

このように、器は余っているので、器の有効利用については、私たちもそう思っていますが、中身としては保護者と子供がきずなを深めていくこの大事な時期に、幼稚園教育が大きな役割を果たしているということは、これからも大事にしていきたいと思っております。そこが一番、私たちも願っているところです。

また、幼稚園の子供たちが園に入園する前はどのようにしているのかということと、入園前までに幼児教室などに通っている子供も非常に

多くおります。ほとんどの保護者も、3歳児保育を希望されております。

毎年、11月に行われる教育委員会との話し合いでもいつもこの話が出ています。

やはり保護者としては、幼稚園教育というものへの信頼や期待が非常に強いということも現実です。

そういうように、幼稚園が担ってきたことが、今後できなくなってしまうようになることが、私たちは一番心配しているところです。例えば、保護者と子供とのつながり、保護者同士のつながり、地域とのつながりが希薄ならないように配慮しながらやっていきたいというのは、みんなの気持ちでございます。

それから、近隣の市では、廃園が決定したにもかかわらず、検討が不十分だということで、差し戻しになったところもあります。十分な検討、実態把握をしながら、前向きに待機児童解消の方法、また幼稚園の空き教室の有効利用ということについては、考えていきたいと思っております。

教育要領の第3章の預かり保育の試みも、幼児の心身に負担をかけないこと、指導計画や教育課程に係る時間の終了後等に行う教育活動計画を作成すること、保護者が幼稚園とともに幼児を育てるという意識が高まるようにすることということも大事に挙げられておりますので、この辺のことを鑑みながら十分な検討をしていきたいと。そして前向きで積極的な幼稚園の取り組みをしていきたいと思っております。

これは9園の園長会の中で話し合われたことです、私は代表をしておりますので、話しをさせていただきました。

委員長) 今日のご感想はどうですか。

前川委員) ですので、今日いろいろ見られたら、空き部屋があるとか、待機児童があるとかということも含めて、今のお話でさせていただいたかと。

委員長) 園長会ではどういうことを。

前川委員) ですから、そういうことも含めて。

委員長) そういった意見も構いませんが、今の議題は、施設等をご覧になってどう思われましたかということです。

前川委員) 今日、見たことと兼ね合わせながら話しをしたつもりでございますが、不十分でしょうか。

委員長) わかりました。結構です。

吉岡委員) 私は前回、施設等を見せていただきたいと口火を切ったような気がするのですが、実際、机上で人数や状況を聞くよりは、3箇所見せていただくというのは、芦屋市の一部であるかもわかりませんが、一端を感じたようなところでございます。

皆さんがおっしゃっていたように、スペースでいいますと、幼稚園は少子化の傾向の中で、当初この地域にはたくさんの子供たちがいたんだろうなという足跡も見ながら、お部屋が空いている状況を見たり、また、逆に保育所も、今の傾向として最低基準をギリギリクリアしながら空間を使っているという現状も見ました。

また、小学校の一部を民間保育所が使用している現状や、今日は子供さんがいなかったのによくわかりませんが、部屋を見ていろいろ感じるところがありました。私が考えたのは、お母さんや、両親が勤めているとか、

様々な事情で、保育園のお子さんと幼稚園のお子さんと同じ年齢の子供を見たときに、空間的に、日常の活動が豊かにできるのにはどうしていけばいいかということを考える必要があるかな。できる限り健やかにみんなが育つあり方はどうであるかを考えたときに、スペースのある幼稚園に限らず、他のところも探してもいいとは思いますが、保育所では定員の1.3倍ぐらいで詰め込むよりは、何かいい方法があるのではないかとというような発想で考える必要があると思いました。公共の施設で、そういう空間があるならばというようなことは感じました。同じ年齢の子供たちが遊ぶときに、十分な条件を整えてやるという必要は絶対にあるのではないかと感じました。

3歳、4歳、5歳の子供は、保育所指針と幼稚園教育要領が整合性を持って、同じ保育、やはり発達が同じだから、ねらいというのは同じであるというのは、建前として国は言っても、私も専門的な立場から言うと、スペース、条件ですね。幼稚園の広さと空間があるところの保育所の3歳児、4歳児、5歳児の保育の展開の仕方と狭い空間の中での展開の仕方は随分違うような気がします。

そういう中で、幼稚園教育が実践されてきたすばらしさというのがある。それを保育園の先生も必死に研究して考えようとしても、条件というのが違うときに、なかなか展開しにくいというような現状も全国的にあると思っています。そういうことを含んだら、芦屋市の独自の3歳、4歳、5歳、さらに言えば、0、1、2歳の子供も含めて、すばらしい環境の中で保育ができるあり方はどうあるべきかというようなことは追求していく必要はあると感じました。

委員長) 今日、幼稚園と保育園を見せていただきました。幼稚園は幼稚園のすばらしい教育内容をもって教育をされているということを見ることができました。それから保育所は、子育て支援の立場から様々な、ニーズを受けとめながら保育をしているというふうなところも見ることができました。幼稚園の先生も保育園の先生も共通しているのは、子供の健やかな育ちを願って一生懸命されているのだというのはひしひしと感じました。今後どうするのかということについては、先ほど幼稚園の廃園とかのお話がありましたが、その様なことをこの委員会で決めるつもりはありません。

前川委員) 違います。近隣で、だからよく検討することが必要ですという意味で、お話させていただいたのです。

委員長) 廃園という過激な発言でビックリしたのですが。

前川委員) いやいや、(検討することが必要ですという意味)

委員長) 今後どうするかということに関しては、両者のいい部分をすべての芦屋市の子供たちに何らかの形で反映させていくことがベストではないかと思いました。

また、幼稚園が延長保育を実施したら、預けたくなる・ならないということは、また、別の問題で、この委員会の中の話題ではないように思いますが。保護者が、子育ては楽しいなっていう啓蒙活動も必要になるかなと思ったのですが、そういう課題があるかなと感じました。

吉岡委員) 先ほど、幼稚園の先生から、検討していくときに、今までの幼稚園の現場で勉強してこられて、実績が沢山あり、それを損なうような検討の仕方は、

だめだと思います。常に私も頭に入れているのは、何かをすることによって、今までされてきたことがだめになっていくのではなく、環境が変わっても、今までされてきたことが更に良くなることも出てくるだろうということも見ていかないとだめではないかと。決してマイナスにしていく方向をこの会で考えることは絶対ないと思います。

前川委員) 私もそう思います。

委員長) ありがとうございました。

時間が押していますので、議題2については、これで終わらせていただきます。

3番目のその他の今後の進め方についてですけれども、事務局から何か報告することはございますか。

事務局) 特にございませませんが、次回の日程を調整していただきたいと思っております。

今後、あと2回ぐらいのスケジュールを考えています。

委員長) 市議会がありますね。

事務局) 6月11日からです。

委員長) 議会までということですが、どうでしょうかね。

(各委員より日程に関して発言あり)

事務局) 皆様の御都合がつくのであれば、そうしていただけたらありがたいと思っております。

委員長) 具体的な日程については、事務局が調整していただけますか。

事務局) 時間帯については、夕方に開催したいと思っております。後日、調整させていただきます。

委員長) よろしいですか。それぞれの委員さんと調整するのは大変だと思いますが。

事務局) 保育所の保護者の方もいらっしゃいますので、今回は5月の下旬から6月の初旬の夕方で調整させていただきます。

委員長) 次回については、これまでの委員会の議論の内容を踏まえまして、考え方とか論点の整理をしたいと思えます。

用意しました議題は以上になりましたけれども、何かありますか。よろしいですか。

では、事務局にお返しします。

事務局) 特にございませぬので、本日はどうもありがとうございました。

以上